

第7章 社会貢献

【到達目標】

本学では、さまざまな部門が主体となって、社会に対して開かれた活動をおこなっている。さらに多くの市民が気軽に参加できるように周知していく必要がでてくる。そのためにも年間のスケジュールとして、定例化できるものは定例化してアナウンスしていくことが考えられる。

1 大学・学部の社会貢献

(a) 社会への貢献

【現状】

a) 社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度

カリキュラム上の位置づけではないが、教育活動の重要な一環として位置づけられているものを列挙する。

(1) 礼拝堂の活用と宗教部ハンドベルクワイアの活動状況

礼拝堂は、地域の市民と卒業生、教職員の献金によって2000(平成12)年に献堂された。毎週木曜日の礼拝の他、宗教部主催の行事である「クリスマス音楽の夕べ」は、毎年、200名の定員で催されているが、ほぼ満席の状態が続いている。これは地域住民に広く公開され続けており、新聞や市の広報などでも案内し、地域住民の関心が高い行事として根付きつつある。

出演者も本学教員と宗教部のハンドベルクワイアだけでなく、地域の音楽家・コーラスグループ等を招き、地域住民の方々との文化交流の機会として機能している。

ハンドベルクワイアは、宗教部の下で組織で、学生と教職員の有志によって作られている。礼拝堂において、毎回の礼拝における奉獻と、例年、10月の学祭「弘学祭」で定期演奏会を開いている。この他、近隣の施設や高校などの要請に基づいて演奏奉仕活動を行っている。年間の主な活動は以下の通り。

4月～翌年3月	毎週木曜日、学内礼拝
4月	入学式、入学礼拝(体育館)
10月	学祭ミニコンサート(礼拝堂)
11月	キリスト教教育週間特別礼拝
12月	クリスマス礼拝 クリスマス音楽の夕べ 各教会、伝道所、学校等のクリスマス礼拝、クリスマスコンサート等
2月	卒業礼拝
3月	卒業式(体育館)

このほか、礼拝堂は結婚式場として、卒業生のみならず一般市民にも利用されている。
また、以下は 2006（平成 18）年度から 2008（平成 20）年度までの礼拝堂の使用状況である。

2006（平成 18）年度

使用責任者名	使用目的	期間	時間
肥田野恵里	チェロとマリンバコンサート	平成18年4月19日	12:00～21:00
弘前学院大学学長 吉岡利忠	永野孝和客員教授講演会	平成18年6月2日	17:40～19:40
津軽福音キリスト教会ジェント・マーチン	コンサート(童謡他)	平成18年6月27日	17:00～21:00
弘前イタリア文化愛好会 荒木恵美子	イタリアの唄を聴く	平成18年7月8日	17:00～21:00
弘前学院大学出身者教職員の会 島山篤	平曲を楽しむ会	平成18年7月15日	18:00～21:00
佐藤恵美	ピアノ演奏会	平成18年7月30日	9:00～17:00
弘前学院大学社会福祉学部 講師 船木幸弘	弘前学院大学「24時間テレビ」チャリティー募金活動	平成18年8月26日	9:00～12:00
		平成18年8月27日	9:00～12:00
メサイヤ演奏後援会 会長 阿保邦弘	伊澤長俊チェンバロ記念演奏会	平成18年10月21日	13:15～21:00
青森県作曲家協会 笹森建英	『音楽展』新作発表会	平成18年11月18日	9:00～17:00
弘前学院大学宗教部 中澤實郎	クリスマス礼拝・「音楽の夕べ」コンサート	平成18年12月14日	10:00～21:00
コールジョイフル 大高恵子	クリスマスコンサート	平成18年12月23日	9:00～17:00

2007（平成 19）年度

使用責任者名	使用目的	期間	時間
パーカッション＜ファルサ＞ 肥田野恵里	安倍圭子&ファルサ マリンバコンサート	平成19年6月7日 平成19年6月8日	12:00～21:00
宮沢賢治研究会 土岐泰	林 洋子弾き語り	平成19年6月10日	12:00～17:00
プリマヴェーラ 大坊幹子	マンドリン練習	平成19年9月8日	17:00～21:00
		平成19年10月27日	18:00～21:00
		平成20年1月19日	18:00～21:00
城南マザーズコール 藤田洋子	城南マザーズコール創立40周年記念演奏会	平成19年10月6日	9:00～17:00
弘前学院大学地域総合文化研究所 笹森建英	平家琵琶演奏会	平成19年10月20日	17:00～19:30
青森県作曲家協会 笹森建英	第33回音楽展コンサートリハーサル	平成19年11月4日	10:00～11:00
		平成19年11月15日	14:30～16:00
青森県作曲家協会 笹森建英	第33回音楽展（県内作曲家による新作発表会）	平成19年11月17日	9:00～17:00
弘前学院大学社会福祉学部 教授 笹森建英	クリスマス礼拝・「音楽の夕べ」打合せ	平成19年11月30日	16:30～18:00
弘前学院大学宗教部 中澤實郎	クリスマス礼拝・「音楽の夕べ」演奏練習	平成19年12月10日	15:00～17:00
弘前学院大学宗教部 中澤實郎	クリスマス礼拝・「音楽の夕べ」コンサート	平成19年12月13日	12:00～21:00
花田・石田ピアノ教室 花田史子	ピアノ・エレクトーン演奏会	平成19年12月15日	9:00～17:00
コールジョイフル 大高恵子	クリスマスコンサート（合唱）	平成19年12月23日	9:00～17:00
プリマヴェーラ 大坊幹子	マンドリン合奏練習	平成20年2月23日	18:00～21:00
		平成20年3月29日	18:00～21:00

2008（平成 20）年度

使用責任者名	使用目的	期間	時間
プリマヴェーラ 大坊幹子	マンドリン練習	平成20年4月19日	18:00～21:00
プリマヴェーラ 大坊幹子	マンドリン合奏練習	平成20年5月11日	13:00～17:00
		平成20年5月30日	18:00～21:00
弘前学院 理事長 阿保邦弘	弘前学院創立122周年記念コンサート及びリハーサル	平成20年5月22日	13:00～17:00
		平成20年5月23日	17:00～21:00
プリマヴェーラ 大坊幹子	第1回定期演奏会マンドリン練習	平成20年5月31日	18:00～21:00
プリマヴェーラ 大坊幹子	第1回定期演奏会	平成20年6月1日	9:00～17:00
プリマヴェーラ 大坊幹子	チャペルコンサートでのマンドリン合奏曲の録音	平成20年6月28日	18:00～21:00
ドラ ピアノ教室 佐藤恵美	ピアノ発表会	平成20年8月24日	9:00～17:00
弘前メサイア演奏会事務局 古川亜湖	伊沢長俊メモリアル チェンバロ演奏会	平成20年9月6日	9:00～21:00
弘前リコーダーアンサンブル 三上邦康	演奏会	平成20年9月27日	9:00～17:00
松江千恵里	ピアノ・エレクトーンコンサート(ピアノ発表会)	平成20年11月24日	9:00～17:00
弘前学院大学 図書館長 森田喜郎	平成20年度青森県高等教育機関図書館協議会研修会	平成20年12月4日	12:00～18:00
		平成20年12月5日	
弘前大学附属小学校合唱団 松江千恵里	附属小学校合唱団クリスマスコンサート	平成20年12月7日	8:00～12:30
弘前学院大学宗教部 中澤實郎	クリスマス礼拝・「音楽の夕べ」コンサート	平成20年12月11日	12:00～21:00
グループ風雅21 木庭袋靖子	木庭袋靖子 箏 KOTO CONCERT V o 1. 16	平成20年12月14日	9:00～17:00
コールジョイフル 大高恵子	クリスマスコンサート(合唱)	平成20年12月23日	9:00～17:00
弘前大学附属小学校吹奏楽団 田中弘美	吹奏楽練習	平成21年1月12日	9:00～12:00
弘前学院大学地域総合文化研究所 笹森建英	地域総合文化研究所第4回講演会	平成21年1月21日	18:00～21:00

(2) 「弘前学院大学出身者教職員の会」の文化交流活動

本学を卒業又は修了し、教職についての方々に、卒業後も本学への支援を願うとともに、現職教育の場として本学大学院を活用願うことを期待して、2006（平成 18）年度に「弘前学院大学出身者教職員の会」（会員数 280 名）を設立した。

会の趣旨に照らして、「弘前学院大学地域総合文化研究所」と連携して、文化的交流の機会を設けることとしており、2006（平成 18）、2007（平成 19）年度に平家琵琶の演奏会、講演会、ワークショップを開催した。

設立以来、大学報である「弘学時報」を会員に送付し、大学の活動に対する会員の理解を深めるよう努めている。

(3) 学祭における学生・市民交流状況

学祭は、学生が主体的に、学友会内に学祭実行委員会を組織して行っている。学友会活動は、カリキュラム上の位置づけは勿論ないのであるが、大学の教育目標を達成するための重要な教育活動の一環と位置づけられている。教職員組織との関連では、学生委員会及び学生課が顧問的な立場で相談に当たり、必要な指導を行っている。

学祭の諸イベントは、市民に開放されており、特に近隣の中・高校生をターゲットにしたものもプログラムされるなど、人気が高い。最近では、学生募集の意味合いもかねて、学

祭時にオープンキャンパスを開催するなど、入試広報センターとの連携も図られている。

イベント・プログラムは、すべて市民一般に開放されており、講演会、プロのエンターテイナーのステージ、ゲーム、カラオケおよびハンドベルコンサートなどを含んで多彩である。

(4) ボランティア活動による市民との交流

本学の社会福祉教育研究所の事業に協力することで社会貢献に関与している。大学院生の中にはスペシャルオリンピックス事務局員として大いに活躍した者がいる。また県の青少年健全育成事業、子育て支援事業および障害児保育研究会等の助成のために、本研究科教員が協力してきた実績がある。

(5) バスケットボールの社会人リーグに対する体育館の開放

弘前市バスケットボール協会の主催する社会人リーグ戦に、毎年、本学の体育館を開放しており、その歴史は16年以上になる。例年5月から9月までのシーズン期間中には毎日のように試合（1日に2試合）が行われており、会場のひとつとして欠かせない存在になっている。

(6) 弘前学院謡曲同好会への市民の参加

毎週1回本学の教室を使って、本学兼任教員の指導のもと、謡曲の練習をおこなっている。日本語・日本文学科を擁する本学としては、生涯教育の観点から日本の古典文学に興味を持つ市民への当然の貢献と考えている。参加者は学生・一般市民約10名である。その活動は4年になり、近年ますます熱心になっている。

(7) 社会福祉士国家試験の会場校としての貢献

財団法人、社会福祉振興・試験センターの要請により、2007（平成19）年から、毎年1月、社会福祉士国家試験の会場校として、本学の教室を提供している。青森県で試験会場となっているのは本学キャンパスだけである。受験者は例年600から700名に及ぶ。社会福祉学部を擁する本学の社会に対して果たすべき役割としては当然といえる。

(8) 社会貢献としての献金

毎週木曜日に礼拝がおこなわれているが、月に1度、礼拝の場で献金がおこなわれる。集められた献金は、例年以下のような団体に送られている。

1. 止揚学園
2. アジア・キリスト教教育基金
3. あおもり命の電話
4. 日本キリスト教団黒石教会
5. 日本国際飢餓対策機構
6. 日本キリスト教海外医療協力会

集められた献金は、ささやかな金額ではあるが、ミッション系の大学として、社会に対する当然の貢献である。

b)公開講座の開設状況とこれへの市民の参加状況

公開講座委員会が所管している講座と、学部（看護学部）独自に行っている事業がある。

(1) 公開講座委員会所管事業

公開講座委員会における公開講座は、「開放講義」と、いわゆる「出前講義（講師派遣事業）」の2種類ある。その概要は以下の通りである。

1) 開放講義

「開放講義」とは、通常行われている講義・演習を無料で一般市民に開放するもので、大学ホームページや市の広報誌などで開設講座を紹介し、市民参加を積極的に進めている。開設講座数は以下の通り。

年度	開設講座数（延受講者数）		
	文学部	社会福祉学部	看護学部
2004（平成16）年度	29（13）	4（1）	
2005（平成17）年度	25（10）	6（3）	
2006（平成18）年度	33（5）	4（0）	2（0）
2007（平成19）年度	33（44）	8（3）	3（2）
2008（平成20）年度	37（33）	12（2）	4（0）

2) 講師派遣事業

講師派遣事業（いわゆる出前講義）には2種類がある。

①青森県が主催する「あおもり県民カレッジ」事業に、毎年講師を派遣している。「あおもり県民カレッジ」では、県民の生涯学習を総合的に支援するための学習情報の提供・相談や学習機会の提供等の事業が行われており、本学も連携機関として事業運営に協力している。あおもり県民カレッジの単位認定講座である生涯学習フェア『大学公開講座まつり』、『大学－地域連携セミナー』そして『現代セミナーひろさき』に参画し、以下のような派遣を行った。

年 度	演 題	講演者	場 所
2004（平成16）年度	大学公開講座まつり「福祉教育とボランティア…『いのちの電話』などの活動を通して」	出村和子教授	2004年10月23日 八戸会場
2005（平成17）年度	大学公開講座まつり「日本文学の発見」－二十世紀初頭における周作人をめぐって－	顧 偉良教授	2005年10月21日 弘前会場
2006（平成18）年度	大学公開講座まつり「健康づくりは地域づくり」	櫻井尚子教授	2006年10月5日 外ヶ浜町会場
2007（平成19）年度	現代セミナーひろさき（テーマ：文化・文学から学ぶ） 「文学とマンガー日本の Manga は世界の財産かー」	井上諭一教授	2007年11月15日 弘前市立中央公民館
2008（平成20）年度	大学－地域連携セミナー－「臓器移植・Gift of life－私たちにできること－」	新田純子助教	2008年10月11日 青森県立尾上総合高校
	現代セミナーひろさき（テーマ：ことば・人・ものがたり） 「角度を変えて読んでみよう－実はこんなに面白い現代日本文学－」	井上諭一教授	2008年2月26日 弘前市立中央公民館

②学校教育機関における各種イベント、職場の研究会・研修会、市民サークルの会合などに講師を派遣している。地域の中学生や高校生といった、まだ価値観の固定されていない若年層に学ぶことの楽しさそのものを訴えかける講座や、各学部の専門性を活かした講座など内容は様々である。前年度末に本学より派遣可能な講師及び講演内容を載せたパンフレットを作成し、県内及び近県の高校・施設・病院等に送付するとともに大学ホームページにも掲載している。講師派遣の際には、事前に申し出のあった高校等と打ち合わせを重ね、講座の持ち方や性格等それぞれのニーズにあわせて対応している。これまで弘前市とその周辺で派遣事業を行ってきたが、2004（平成 16）年度からは県内・近県へと地域を拡大して取り組んでいる。

年度	講義題	講師	場所	参加者
2004 (平成 16) 年度	日本全国方言桃太郎	今村かほる助教授	青森県立鯉ヶ沢高校	30名
	こんなカタカナ語はあたりまえか？	今村かほる助教授	青森県立木造高校	37名
	熱い魂と人間関係	西東克介助教授	青森県立岩木高校	120名
	日本全国方言桃太郎	今村かほる助教授		100名
	君のまわりの『うわさ』は本当か	西東克介助教授		100名
2005 (平成 17) 年度	われわれはなぜ学ぶのか	走井洋一講師	東奥義塾高校	52名
	悩んで楽しんで人間の長所と短所を考える	西東克介助教授	青森県立鯉ヶ沢高校	360名
	日本全国方言桃太郎	今村かほる助教授	青森県立木造高校	34名
	努力のスタイルを兀兀（こつこつ）と	西東克介助教授	青森県立弘前中央高校	250名
2006 (平成 18) 年度	衣装の哲学	鎌田学助教授	青森県立弘前南高校	12名
	臓器移植－gift of life－	新田純子助手		22名
	異文化コミュニケーションと異文化理解	タッド・レオナルド助教授	青森県立青森戸山高校	56名
	福祉の仕事	八戸宏助教授	青森県立青森中央高校	19名
	What is nursing?	幸山靖子助手		10名
	看護と経営参画－診療報酬改定を中心に－	村田千代教授	黒石市国民健康保険黒石病院	20名
2007 (平成 19) 年度	あるアメリカ歴史小説への招待	渡邊教一准教授	青森県立木造学校	50名
	ライフサイクル各期の特徴と看護	仁木雪子講師	秋田県立秋田西高校	22名
	青森県の民俗芸能・音楽（縄文時代から現代まで）、津軽の民間信仰（いたこ）	笹森建英教授	青森県立弘前南高校	30名
	文学とマンガー日本のMangaは世界の財産かー	井上諭一教授	青森県立青森北高校	52名
	性教育講話会	仁木雪子講師	秋田県大館市立上川沿小学校	50名
	福祉を学ぶとは	八戸宏准教授	青森県立青森中央高校	30名
	看護の仕事とは何だろう	阿保祥子助手		31名
	看護介護研究指導者育成研修「研究」（月1回、計6回）	中村令子准教授	八戸西健診プラザ	87名
	わたしたちは子どもといかに向き合えばよいのか	走井洋一准教授	弘前市少年相談センター	60名
2008 (平成 20) 年度	看護研究の進め方（計3回）	中村令子准教授	国立病院機構青森病院	70名
	がん看護・緩和ケアに関すること	原田真里子講師	秋田県立金足農業高校	20名
	スウェーデン・マルメ市の人々	岡田実准教授		21名
	異文化コミュニケーションと異文化理解	タッド・レオナルド助教授	青森県立弘前南高校	13名
	性教育講座	仁木雪子講師	秋田県大館市立田代中学校	137名
	SAY・性・生～素敵女性をめざして～	仁木雪子講師	秋田県立仁賀保高校	161名
	性教育講座～SAY・性・生～	仁木雪子講師	秋田県立西目高校	158名
	現代日本文学を読むー長嶋有「タンノイのエジンバラ」を例として	井上諭一教授	岩手県立大船渡高校	40名
	病院経営から見た看護管理	村田千代教授	財団法人双仁会厚生病院 附属看護学院	60名

	社会福祉を学ぶこと～人と上手につきあうコミュニケーション～	小川幸裕講師	青森県立青森中央高校	12名
	文学としてのマンガ	井上諭一教授	青森県立黒石高校	36名

(2) 看護学部リカレント教育事業

2005（平成17）年度に新設された看護学部では、2005（平成17）年より毎年「リカレント教育（循環再教育）」を実施している。

この教育の趣旨とねらいは、以下のように位置づけられる。

看護を取り巻く環境は、最近いろいろな変化を余儀なくされ、それに対する多様な対応が求められている。その一環として、高度な医療に対応する看護技術の習得、根拠を持った看護援助のあり方、クリテカルパス、情報機器などを活用した費用効率性の高い看護のあり方などが強調されている。

また、その反面で、傾聴と癒し、インフォームドコンセント、利用者の意思の尊重など利用者の立場に立ったアプローチが、高度医療を支える要素として重視されている。そして、この2つの面はこれからの医療看護活動の重要な要素として広く認識されている。

しかし、実際の看護の中で、これらの要素をよく理解し、それをどう展開していくかという点になると、不確かな看護職員のいることも否定できない。

こうした観点から、本プログラムでは、身近な課題を取り上げ、最近の話題を織り交ぜながら、看護の実践的な能力の理解が深められよう内容を組み立て企画された。詳細は以下の通りである。

年 度	講 義 題	講 師
2005（平成17） 年度 11月12日（土） 13日（日）	現在の看護教育の考え方とその課題 —臨床と乖離しない教育の方法論をめぐって—	神郡博教授
	心電図の記録と見方—健康な人と病気の人の場合—	片桐康雄教授、 木村紀美教授
	傾聴と癒しの技術—どうしたら相手のこころを捉えることができるか—	東中須恵子講師
	医療の中の最近の情報科学の動向 a. 病院情報システムの動向について b. 大学病院衛星医療情報ネットワークについて c. 医療に関する情報収集や情報交換のためのインターネット利用について	三上聖治教授
	患者と家族の意思の尊重—臓器提供をめぐる話題—患者と家族の意思の尊重 —臓器提供をめぐって—	新田純子助手
	最近の健康の考え方—健康を支援する看護のありかた—	櫻井尚子教授
2006（平成18） 年度 10月21日（土）	緩和ケアの現状と方向性	木村紀美教授、 原田真里子講師
	ドメスティック・バイオレンスと看護の役割	仁木雪子講師
	あなたの心はまがっている？ —心電図実習—	片桐康雄教授
	新しい診療報酬体系とこれからの看護—診療報酬改定と看護管理—	村田千代教授
	精神科の臨床における看護師の思考と行動 —クライアントの攻撃に対する看護対応を通して—	岡田実助教授
	電子情報と倫理	三上聖治教授
2007（平成19） 年度	看護研究に活かせるプレゼンテーションツール（パワーポイント）の使い方	三上聖治教授
	EBMに基づく看護技術	齋藤美紀子講師

11月10日(土) 12月1日(土)	シンポジウム「ともに育ち合う臨地実習のあり方ー教育現場と臨床現場の相互理解を深めるためにー」 ・大学教育における臨地実習のあり方 ・弘前学院大学看護学部としての臨地実習のあり方 ・臨床現場が看護基礎教育に望むこと ・臨地実習受け入れ施設の実情	座長・岡田実准教授 シンポジスト 櫛引美代子教授 原田真里子講師 和島早苗弘前脳卒中センター看護部長 伊藤悦子国立病院機構弘前病院看護師長
2008(平成20)年度 10月4日(土) 10月11日(土)	臨床実践に役立つ看護研究とは 看護研究に活かせる情報処理について 研究課題の解決方法を探しましょう テーマを絞って研究計画を立てましょう	神郡博教授 三上聖治教授 原田真里子講師 齋藤美紀子講師

2005(平成17)年度は地域医療に従事する現職の看護関係者を対象として実施され、21名の受講者、2006(平成18)年度は9名の受講者、2007(平成19)年度は66名の受講者、2008(平成20)年度は84名の受講者があった。

c)教育研究の成果の社会への還元状況

下記のとおり列举する。

(1) 文学研究科専任教員の著作の刊行

大学院専任教員(5名)が2004(平成16)年1月以降に出版した図書は、次の通りである。

書名	著者	単著、共著の別	出版年月	出版社	編者
「仮名書き法華経」研究序説	野沢勝夫	単著	2006年3月	勉誠社	
慈円研究序説の補説(2)	丸山正道	単著	2004年5月	私家版	
古典文学にみる女性の生き方事典	森田喜郎	共著	2008年5月	国書刊行会	西沢正史
辞世の言葉で知る日本史人物像事典	森田喜郎	共著	2009年6月	東京堂出版	西沢正史
地域学Ⅱ	笹森建英 畠山 篤	共著	2004年3月	北方新社	笹森建英 畠山 篤
SHAMANISM in the Interdisciplinary Context	笹森建英 畠山 篤	共著	2004年8月	世界シャーマン学会	Art Leet 他
SHAMANISM ~ An Encyclopedia of World Beliefs, Practices, and Cultures	笹森建英	共著	2005年	ABC-CLIO	M. Walter 他
Tsugaru ~ Regional Identity on Japan's Northern Periphery ~	笹森建英	共著	2005年4月	University of Otago Nanyan Guo 他	
地域学Ⅲ	笹森建英 畠山 篤	共著	2005年6月	北方新社	笹森建英 畠山 篤
田澤吉郎伝	笹森建英	共著	2005年6月	弘前学院出版会	阿保邦弘
新編弘前史	笹森建英	共著	2005年11月	弘前市	虎尾俊哉
地域学Ⅳ	笹森建英	共著	2006年6月	北方新社	笹森建英
地域学Ⅴ	笹森建英 畠山 篤	共著	2007年4月	北方新社	笹森建英 畠山 篤
戦前・戦中の子どもたち	笹森建英	共著	2007年12月	青森プレス社	吉田 豊
日曜の朝に~辛口一筆 時事随想	笹森建英	共著	2008年3月	北方新社	西東克介 森田 猛
地域学Ⅵ	笹森建英 畠山 篤	共著	2008年3月	北方新社	笹森建英 畠山篤
地域学Ⅶ	笹森建英	共著	2009年3月	北方新社	笹森建英
伝承文学研究の方法	畠山 篤	共著	2005年3月	岩田書院	野村純一
沖縄の祭祀伝承の研究ー儀礼・神歌・語りー	畠山 篤	単著	2006年2月	瑞木書房	
巫覡・盲僧の伝承世界第3集	畠山 篤	共著	2006年12月	三弥井書店	福田 晃 山下欣一
ことばの世界第1巻	畠山 篤	共著	2008年2月	三弥井書店	日本口承文芸学会

日本近現代における「津軽文化」に関する研究及び海外への紹介「The Oni Thugaru」	畠山篤	共著	2008年3月	科研費基礎研究 C 研究報告書 J. N. ウェスタホーベン
津軽の獅子踊り研究	畠山篤	共著	2008年3月	青森県教育委員 会 笹森建英 工藤哲彦
口承文芸への夢	畠山篤	共著	2008年3月	野村純一先生追悼集刊行会

(2) 地域総合文化研究所の研究成果の発表

地域総合文化研究所は、1983（昭和 58）年に重要文化財である宣教師館内に創設され、地域の文化を学際的・総合的な視野から調査研究することを目的としている。津軽地域におけるフィールドワークをもとにした研究、地域の歴史や文化に関する資料の収集、講演会、公開講座、県民カレッジの共催、研究成果の公開を研究活動の柱とした。

その取り組みの中から、2001（平成 13）年に公開講座の部門を分離し、「公開講座委員会」に移行した。その後は、調査研究、巡見、講演会、フォーラムおよび著書発行などの事業を展開している。

なお、早稲田大学社会科学総合学院の篠田徹教授と、青森県埋蔵文化財調査センターの鈴木克彦氏が本研究所の客員調査員として、それぞれの分野で調査研究をおこなっている。

財団法人青森学術文化振興財団から 2009（平成 21）年度の研究助成を獲得し、縄文時代の楽器と想定される木製のコトに関する報告書を作成中である（研究代表者 鈴木克彦）。フォーラム「岩木山信仰と神楽」（2006（平成 18）年）、並びに修験道に焦点を当てたフォーラム「大鰐町の歴史と文化」（2009（平成 21）年）の企画立案、実施、報告書作成に関わり、地域文化の理解、啓蒙に努めている。

講演や研究発表は、学内のみにとどまらず学外からも講演者を招き、学生はもちろん、学外者にも開放している。2004（平成 16）年度以降の講演の詳細は以下の通りである。

年度	回	講師	演題	受講者
2004 (平成 16) 年度	1	梶木剛 (文芸批評家、放送大学助教授)	陸羯南という存在	50名
	2	大高研道 (弘前学院大学助教授)	21世紀の地域づくり実践に求められるもの	30名
	3	稲葉克夫 (NHK カルチャセンター講師、郷土史家)	陸羯南の津軽	70名
	4	島袋純 (琉球大学助教授)	地域主義・リージョナリズムとはなにか	40名
2005 (平成 17) 年度	1	福土壽一 (弘前学院大学兼任教員)	鳥居の鬼をめぐる諸問題	50名
	2	関井光男 (近畿大学大学院教授・文芸評論家)	東北文化と世界性	30名
	3	村井早苗 (日本女子大学助教授)	キリシタン禁制をめぐる地域差	30名
	4	井上諭一 (弘前学院大学教授)	青森県出身作家の『現代』	30名
	5	J. N. ウェスタホーベン (弘前大学教授)	津軽三味線－外国人の目から見た特質－	30名
	6	中村祐司 (宇都宮大学教授)	地域社会の新たなボランティア活動の展開と課題	70名
2006 (平成 18) 年度	1	大串靖子 (青森県立保健大学大学院教授) 木村紀美 (弘前学院大学教授)	青森県における看護師養成の歴史 看護教育制度の変遷・津軽地方の看護教育史	20名
	2	野村純一 (国学院大学元教授・弘前学院大学兼任教員)	ハナシ 説話の来た道 －北方民族と『鼠の嫁入り』－	20名

	3	黒沢賢一（福島NHK文化センター講師）	『安寿と厨子王伝説』を読み解く —伝説が現代に伝える教訓—	45名
	4	西東克介（弘前学院大学助教授）	『津軽』および日本社会の指向・行動パターンと教育基本法の個人尊重	15名
2007 （平成19） 年度	1	ライダー島崎玲子 （青森中央短期大学教授）	看護 専門職化と占領軍による改革	30名
	2	橋本敏江、鈴木孝庸（前田流平家琵琶） 演奏：橋本、鈴木、竹佐古真希	平家琵琶を楽しむ ワークショップ「祇園精舎」 演奏「平家琵琶、パイプオルガン」	31名 150名
	3	ジェラルド・グローマー （山梨大学教授）	瞽女・座頭 江戸時代の視覚障害者が歩んだ 自立への道～芸能活動を中心として～	19名
	4	日高貢一郎（大分大学教授）	看護・福祉と「方言」の役割	38名
2008 （平成20） 年度	1	大串靖子 （青森県立保健大学大学院客員教授）	弘前陸軍病院の看護婦 ～青森県の看護教育史～	76名
	2	八木橋鉄弘（弘前学院大学講師） 成田育男（青森明の星短期大学元教授） 松本郁代（弘前学院大学准教授）	新渡戸稲造とその水脈	30名
	3	大石泰夫（盛岡大学教授）	<地域>と民俗芸能 ～伝承のありかたを考える～	40名
	4	篠田徹（早稲田大学教授）	再訪青森県労働運動史	50名

上記の講演を中心とした内容を「地域学」として刊行している。創刊号は発行するや3ヵ月で完売した。地域を学問として把握することの必要性和、各論考が対象とした事柄、この種の著書への関心・需要が証されたと考えられる。

2002（平成14）年9月に『地域学創刊号』（202頁）、2004（平成16）年3月に『地域学第Ⅱ巻』（231頁）が刊行され、2005（平成17）年以降は毎年刊行している。『地域学第Ⅲ巻』以降の内容は以下の通りである。

『地域学Ⅲ巻一特集 陸羯南一』（228頁、2005（平成17）年6月刊行）	
内 容	著 者
陸羯南の津軽（その1）	稲葉克夫
陸羯南という存在	梶木 剛
陸羯南と井上毅—その思想的親近性をめぐって（1）—	野口伐名
平地水田地帯の民俗—津軽の「サルケ」を緒として—	野本寛一
能舞「鈴木」の構成と解釈	畠山 篤
神の愛による青森県初めての幼稚園（3）—明治38年の私立弘前幼稚園の保育（3）—	野口伐名
「標準語教育論争」から方言と共通語の教育を考える	今村かほる
Life with the Tsugaru Shamisen : An Interview with YAMADA Chisato(山田千里, 1931—2004)	Takefusa SASAMORI、James WESTERHOVEN、Henry JONSON
『地域学Ⅳ巻一津軽キリシタン史・陸羯南一』（202頁、2006（平成18）年6月刊行）	
内 容	著 者
蝦夷島におけるキリシタン禁制—津軽キリシタン史との関連を中心に—	村井早苗
陸羯南の津軽（その2）	稲葉克夫
陸羯南と井上毅—その思想的親近性「愛国心」をめぐって（2）—	野口伐名
青森地名雑記	中村幸弘

津軽の鳥居の鬼コノ背景—とくに役行者(観音)と毘沙門天(鬼)との関連において—	福士壽一
遠藤熊吉の標準語教育と標準語教育論争—近藤国一の理論背景として—	今村かほる
1930年代の岩手県における農村社会事業の一断面	松本郁代
神の愛による青森県初めての幼稚園(4)—明治三十八年の私立弘前幼稚園の保育—	野口伐名
地域社会における新たなボランティア活動の展開と課題—うつのみやし総合型地域スポーツクラブ「友遊いずみクラブ」の設立・運営に注目して—	中村祐司
『地域学V巻—陸羯南・岩木山信仰—』(324頁、2007(平成19)年4月刊行)	
内 容	著 者
陸羯南の津軽(その3)—東奥義塾から宮城師範学校へ—	稲葉克夫
陸羯南と井上毅—その思想的親近性「実業教育観」をめぐって(3)—	野口伐名
ハナシ 説話の来た道—北方民族と「鼠の嫁入り」—	野村純一
津軽十夜	中村幸弘
能舞(鐘巻)の復元と文学的評価	畠山 篤
「安寿と厨子王伝説」への誘い—全国各地の「安寿と厨子王伝説」概説—	黒沢賢一
祢ぶたはながれる ま免の葉へとどまれ	福士壽一
神の愛による青森県初めての幼稚園(5)—明治38年の私立弘前幼稚園の保育—	野口伐名
青森県の看護教育史研究(第1報)—旧制度の看護婦等養成について—	大串靖子
青森県の看護教育史研究(第2報)—津軽地方の看護教育史について 明治から戦時下の看護教育まで—	木村紀美
分権改革の中の道州制—地域からのイニシアティブのために—	島袋 純
旧教育基本法の個人尊重と日本社会の指向・行動パターンの可能性と限界	西東克介
岩木山信仰と神楽	笹森建英・畠山 篤
『地域学VI巻—津軽神楽・狂楽舞・東通の芸能—』(245頁、2008(平成20)年3月刊行)	
内 容	著 者
東通村の民俗芸能	川畑修二
狂楽舞・解説『舞方物認』	笹森建英・畠山 篤・ 今井民子
津軽神楽<兼平><猶生><狐>の演劇的主題	今井民子
津軽神楽<蕨折>の復元と文学的評価	畠山 篤
弘前藩「改正文化律」の施行をめぐって	黒瀧十二郎
縄文琴事始	鈴木克彦
看護・福祉と「方言」の役割	日高貢一郎
津軽の国会開設運動—知られざる指導者笹森要蔵の生涯とその行動—	野口伐名
神の愛による青森県初めての幼稚園(6)—明治38年の私立弘前幼稚園の保育—	野口伐名
日本における看護の専門職化への道—占領軍による医療と看護改革—	ライダー島崎玲子
Visual Disability, Religious Practices, and the Performing Arts during the Edo Period in Northern Japan	Gerald Groemer
『地域学VII巻—新渡戸稲造・本多庸一—』(249頁、2009(平成21)年3月刊行)	
内 容	著 者
新渡戸稲造とその水脈 1 人と教育 2 柳田国男と矢内原忠雄	1 八木橋鉄弘 2 成田育男

3 慈善事業・社会事業からみた札幌遠友夜学校	3 松本郁代
津軽の知られざる指導者笹森要蔵の思想と行動－青森県初めての県会議員と第3大区5小区戸長第15学区取締兼勤の活動を中心に－	野口伐名
『岡田哲蔵旧蔵・本多庸一関係資料』について【報告】	松本郁代
神の愛による青森県初めての幼稚園（7）－明治38年の私立弘前幼稚園の保育（7）－	野口伐名
弘前陸軍病院から国立弘前病院への看護婦養成教育の継承	大串靖子・田中広美
<地域>と民俗芸能－伝承のあり方を考える－	大石泰夫
なぜ『青森県労働運動史』は大事か－地域学における労働運動史の可能性－	篠田徹
津軽三味線－過去・現在・将来－	笹森建英
Past, Present, and Future of Tsugaru Shamisen An Interview with MATSUKI Hiroyasu and NISHIKAWA Yoko	James WESTERHOVEN, Henry JOHNSON, Anthony RAUSCH

(3) 社会福祉教育研究所の研究成果の還元

社会福祉教育研究所は、「社会福祉サービスの利用者のみならず、福祉を支える人々や地域と共にある大学として機能し、また、教員ならびに教育を支援する」ことを目的として1999（平成11）年の社会福祉学部の開設と共に附属機関として設置された。

1999（平成11）年から本学学生による自主的な研究として「つがる福祉創造フォーラム」が年1回開催されている。これは「地域みなさんや社会福祉に携わっておられる専門職の方々の知恵やアドバイスをいただきながら、学生の視点から見た『将来の福祉』を模索し、地域の新たな福祉を考え創造していく」ことを目的としている。研究所はこの運営に指導・助言を与えている。地域の福祉関係者との交流や問題提起を目標に、学生による研究調査・発表と参加者全体での討論を主な内容とするこの事業は、学社融合の取り組みのひとつとして位置づけられる。

2006（平成18）年度より一時事業が中断されたが、2008（平成20）年度より「ヒロガク福祉創造フォーラム」として新しく復活し、地域の医療・福祉専門職の方々や卒業生を迎え、広く一般市民に公開して開催された。シンポジウムや学生による研究発表の他に、施設関係者による食品・小物販売や実践現場の方とのワークショップの実施などこれまでにない新しい取り組みもなされた。今後、毎年同時期に開催する予定である。詳細は以下の通り。

年度(回)	開催日	テーマ
2002（平成14）年度（第4回）	11月4日	「育てよう福祉の心、あなたから」
2003（平成15）年度（第5回）	11月2日	「バリアフリー」
2004（平成16）年度（第6回）	11月10・11日	「伝えよう地域へ、育もう福祉の心」
2005（平成17）年度（第7回）	11月9・10日	「育もう親子のきずな」
2006（平成18）年度	実施せず	
2007（平成19）年度	実施せず	
2008（平成20）年度（第1回） ヒロガク福祉創造フォーラム	11月9日	シンポジウム「 ^{いま} 現在、社会福祉に何が問われているか」 研究発表コンペティション2008 (必要性が高まる社会福祉士～青森県3市の調査結果から～ 他) ワークショップ：社会福祉の古典・名著を読む

(4) 学内学会の市民への開放

①英語英米文学会

英語英米文学会は、英語・英米文学科教員と学生、および卒業生から組織されている。例年、年 1 回の学会誌を発行する他、学外より講師を招聘し講演会を行い、広く一般に公開している。詳細は以下の通りである。

年 度	秋 期 講 演
2004 (平成 16) 年度 10 月 10 日	演題：「変化するアメリカの家族」 講師：本田康典 (宮城学院女子大学教授)
2005 (平成 17) 年度 10 月 9 日	演題：「日本語教師ってどんな仕事？」 講師：新川以智子 (弘前学院大学兼任教員) (国語国文学会と共催)
2006 (平成 18) 年度 10 月 8 日	演題：「オセアニア・アジアへの短期留学」 講師：鹿島英一 (九州大学教授)
2007 (平成 19) 年度 12 月 1 日	演題：「『国際住民』に対し 21 世紀の日本・地方自治体のあるべき姿」 講師：有道出人 (北海道情報大学)
2008 (平成 20) 年度 11 月 29 日	演題：「国際的視野からことばの学習について考える」 講師：高梨康雄 (弘前大学名誉教授・アジアネット教育研究所英語教育研究顧問)

②国語国文学会

国語国文学会は、日本語・日本文学科と大学院文学研究科の教員と学生・院生、卒業生で組織している学内学会である。年間 2 回 (夏季大会・秋季大会) の研究大会と学会誌・会報の発行、文学散歩を主たる活動内容としている。

夏季大会は例年 7 月に、秋季大会は例年 11 月または 1 月に開催され、一般に公開されている。近隣の高校生や地域住民、高校の先生方などに通知・招待し、研究発表後の質疑応答にも参加している。

年 度	秋期大会 (卒論発表会)
2004 (平成 16) 年度 1 月 22 日	朝比奈里子「嫉妬する女たち」 東 里沙「光源氏の愛した紫の女たち」 中村志津子「記紀における衣通姫伝承の比較」 今田さとこ「『雨月物語』蛇性の姪における真女兒の愛情について」 佐々木将道「芥川龍之介論—色彩表現に見る意識と展開—」 蛭沢 孝行「三島由紀夫論—三島由紀夫の演技—」 菅 由美子「中原中也論—詩のリズムが生まれるところ—」 油井 嘉宏「青森・秋田グロットグラム調査」 成田 隆志「国語教育の中心における方言と共通語」
2005 (平成 17) 年度 11 月 19 日	中村志津子「 ^{ニイムロホカ} 新室寿いの考察」 蛭沢 孝行「三島由紀夫論—『仮面の告白』を中心に—」 成田 彩子「近代語文末表現の研究」
2006 (平成 18) 年度 1 月 20 日	寺田 憲史「『万葉集』の複合語に関する研究」 福士 りか「『物語二百番歌合』の研究」 須藤 貴子「日蓮の人と文学と思想の研究」 成田 明伸「村上春樹『ノルウェイの森』論」
2007 (平成 19) 年度 1 月 19 日	本間 尚子「方言と共通語のスイッチング—弘前学院大学における—」 種市 洋平「ライトノベル」論 林 有希「『建礼門院右京大夫集』の研究」 高橋 直樹「西行法師—歌とその人となり—」
2008 (平成 20) 年度 1 月 31 日	種市 洋平「『ライトノベル』論」 顧 偉良「『継続的思考』—大江健三郎を読む—」

2005 (平成 17) 年度の夏季大会は大学院文学研究科開設記念として、大学院教授 3 名の

研究発表が行われた。秋季大会は大学院生 3 名の研究発表が行われた。また、同年には初の試みとして英語英米文学会と共催で講演会を開催している。2007（平成 19）年度の夏季大会では英語・英米文学科の学生も含めた留学経験のある学生が「短期留学を語る」と題して発表会を行った。

(5) 「あすなろマスターカレッジ」事業への参加

「あすなろマスターカレッジ」とは、青森県総合社会教育センターが 2004（平成 16）年度から実施している学習事業であり、その趣旨は「県民の高度な学習要求に応えるとともに、学習者の社会活動を促進するため、高等教育機関等との連携により専門的・実務的能力の向上に資する学習機会を設け、地域において、学習成果を生かした社会参加活動を主体的に推進できる人材を育成する」こととされている。「人文科学」「健康福祉」「自然科学」の 3 コースがあり、地域で講師・リーダー等として活動するための知識・技能等を習得できるように 2 年間の学習期間が設けられている。

本学では講義への講師派遣のみならず、事業の企画・方向性及び課題等について協議する「あすなろマスターカレッジ企画委員会」に委員として教員を派遣し、企画立案の段階から深く関与している。また、各コースのカリキュラムや選考試験の内容等について協議する「あすなろマスターカレッジ検討委員会」にも複数の教員を派遣している。

実際の講義について言えば、本学は「人文科学コース弘前校」（2005（平成 17）年～2006（平成 18）年度と 2008（平成 20）年～2009（平成 21）年度に開校）に講師を派遣している。この講義の中には、本学の通常の講義や演習をあすなろマスターカレッジ受講生にそのまま、本学学生と一緒に聴講してもらう形式のものもあり、受講生からも学生からも好評を博している。また、この形式のものに限らず、本学施設を広く学習場所として提供しており、本学教員の担当する講義はほぼ本学の学内において実施されている。

全体として、本学の積極的な関与が、この事業の実質を高める一助となり、地域社会に貢献できていることは間違いないと自負している。

なお、本学教員が講師を務める講義について、詳細は以下の通りである。

年 度	講 師	学 習 内 容 等
2005（平成 17）年度	井上諭一	地域研究 B（聴講）、郷土文学研究 2（聴講）
	顧 偉良	日本文学演習 III D-2（聴講）
	今村かほる	日本語学概論 2（聴講）
2006（平成 18）年度	畠山 篤	郷土の民俗 I 民間信仰
	井上諭一	論文・レポートの書き方(1)・(2)、郷土出身の文筆家 I・II、作品研究 II～IV、日本文学演習 II C-1（聴講）、日本近代現代文学史 B（聴講）
	顧 偉良	作家研究 II～IV、日本文学演習 II D-1（聴講）
	今村かほる	方言の調査 I・II、IV～VI、日本語学演習 I A-1（聴講）
	笹森建英	郷土の民俗 II 芸能
	工藤睦男	青森県の歴史 V・VI
	船木幸弘	マネジメント講座 I コミュニケーションの実際 マネジメント講座 II 組織活動とリーダー
	柘植秀通	マネジメント講座 III 人前で発表を マネジメント講座 IV もっと工夫は？

2008（平成20）年度	井上諭一	郷土の作家と作品Ⅹ（平成の作家と作品）、作品研究（1）～（4） 地域文学研究A（聴講）、日本近代現代文学史A（聴講）
	今村かほる	日本語学概論Ⅰ・Ⅱ、日本語学演習ⅠA・ⅡA（聴講）
	船木幸弘	あすなろマスターカレッジ開講式記念講演「社会参加活動に必要なこと」
2009（平成21）年度	井上諭一	郷土文学研究 レポート作成と発表、郷土出身の文筆家Ⅱ 板垣直子他、 日本近代現代文学史A（聴講）
	今村かほる	日本語学概論Ⅲ・Ⅳ 方言研究の方法、日本語学演習ⅠA（聴講）

（6）科学研究費補助金による研究成果の還元

本学では積極的な外部資金獲得のため、学長自ら「科学研究費補助金」への申請を教員に促しており、年々採択率が増加傾向にある。その科学研究費補助金による研究の成果報告の一環として、学外の団体及び研究者と連携した活動が実施された。詳細は下記の通りである。

年 度	内 容
2007（平成19）年度 2008年3月16日 弘前市総合学習センター	「医療・看護・福祉現場は『方言』で変わる－方言活用に関する自由な意見交換会－」 主催：医療・看護・福祉と「方言」研究グループ（代表：岩城裕之） 共催：弘前学院大学 《プログラム》 挨拶 吉岡利忠（弘前学院大学 学長） 第1部 方言研究の立場から－現在の取り組み－ ①医療・看護・福祉と方言 ②研究グループの研究の概要と現状 第2部 医療・看護・福祉の現場から ①現場における「方言」の問題 西川泰右（西川胃腸科外科医院 院長）、込山 稔（大清水ホーム 施設長） ②医療・看護・福祉の教育現場と「方言」の教育 井上諭一（弘前学院大学 教授）、横浜礼子（弘前福祉短期大学 教授） 第3部 意見交換会 科学研究費補助金 萌芽研究「研究代表者：岩城裕之（富山商船高等専門学校 講師）」 研究協力者：今村かほる（弘前学院大学 准教授）
2008（平成20）年度 2008年10月18日 弘前学院大学	シンポジウム：鲁迅、周作人と1920年代の日本 《プログラム》 挨拶 吉岡利忠（弘前学院大学 学長） 1. 周作人の散文世界におけるユートピアの精神をめぐって 報告者：顧 偉良（弘前学院大学 教授） コメンテーター：李梁（弘前大学 准教授） 2. 周作人と松枝茂夫－雑誌『近世庶民文化』掲載の佚文をめぐって－ 報告者：小川利康（早稲田大学 教授） コメンテーター：長堀祐造（慶応大学 教授） 科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究代表者：顧 偉良（弘前学院大学 教授）
2008（平成20）年度 2009年3月23日 弘前学院大学	「保健・医療・福祉に利用できる方言データベースとコミュニケーションマニュアルの開発」研究報告会 主催：医療・看護・福祉と「方言」研究グループ（代表：岩城裕之） 共催：弘前学院大学 《プログラム》 司会：今村かほる 第1部 各地の現状 大分 日高貢一郎（大分大学 教授） 富山 岩城 裕之（呉工業高等専門学校 准教授） 津軽 今村かほる（弘前学院大学 准教授） 第2部 解決に向けての提案 方言データベースの開発 岩城 裕之 方言ビデオの開発 今村かほる 第3部 新たな問題点と今後の展望 インドネシア人介護士さんの就労をめぐって 今村かほる 意見交換 司会：日高貢一郎 科学研究費補助金 萌芽研究「研究代表者：岩城裕之（呉工業高等専門学校 准教授）」 研究協力者：今村かほる（弘前学院大学 准教授）

（7）青森県看護教員再教育講習会の実施

本学看護学部において、2008（平成20）年度に青森県看護教員再教育講習会を実施した。

看護学部教員に加え、外部より講師を招聘して合計 5 日間にわたって講義及び演習方式で行われた。この講習会は青森県健康福祉部医療薬務課からの委嘱によるものである。詳細は下記の通りである。なお参加者は 14 名であった。

年度	講義題	講師（*は外部講師）
2008(平成 20)年度 2月16日(月)	フィジカルアセスメントの概要、実際(演習)(脳神経、呼吸器系)	木村紀美、漆坂真弓、新田純子 *藤野智子、*山崎雅美
2月17日(火)	演習(心血管系、腹部系、乳房・リンパ系、骨格系)	同上
2月18日(水)	演習(直腸・肛門、感覚器系、口腔・歯・外皮系)	同上
2月27日(金)	講義・演習(心電図の見方) 講義:医療安全	片桐康雄、*和島早苗
2月28日(土)	講義、演習(災害看護)	*福元大介、*斉藤意子

d) 国や地方自治体等の政策形成への寄与の状況

教員の専門性に鑑み、国や地方公共団体、更にはこれに準ずる法人や団体などからも、政策形成や各種会議の委員などへの就任要請が毎年度数多くあり、可能な限りこれに対応している。国レベルとともに、特に本県の政策決定あるいは遂行に係る委員への要請は多く、大学の立地を生かした貢献がなされている。

2008(平成 20)年度 国縣市町村およびこれに準ずる団体等の政策形成等に寄与する活動

種別	学部	職名	氏名	依頼を受けた業務	依頼元	期間
委員		学長	吉岡利忠	日本学術会議連携委員	日本学術会議	06.8.20～現在
委員		学長	吉岡利忠	宇宙航空開発機構有人サポート委員会専門委員	宇宙航空開発機構	98.5.1～現在
委員		学長	吉岡利忠	「健康あおもり 21」健康寿命アップ計画推進委員会委員長	青森県知事	00.4.1～現在
委員		学長	吉岡利忠	青森県米粉利用推進協議会会長	青森県知事	03.4.1～現在
委員		学長	吉岡利忠	青森県食育推進会議委員	青森県知事	06.4.1～現在
委員		学長	吉岡利忠	日本高等教育評価機構評価委員	(財)日本高等評価機構	05.10.1～現在
委員		学長	吉岡利忠	ミニ地球居住実験安全検討委員会委員	(財)環境科学技術研究所	04.4.1～09.5
委員		学長	吉岡利忠	スポーツ科学委員会副委員長	(財)青森県体育協会	03.5.30～現在
委員		学長	吉岡利忠	国立大学教育研究評価委員会専門委員	(独)大学評価・学位授与機構	08.2～現在
委員		学長	吉岡利忠	環境シミュレーション研究部炭素移行実験安全検討委員会委員	(財)環境科学技術研究所	09.5～現在
委員		学長	吉岡利忠	日本学術会議東北地区会議運営協議会員	日本学術会議	08.6～現在
委員		学長	吉岡利忠	(財)日本海洋レジャー安全・振興協会評議員	(財)日本海洋レジャー安全・振興協会	07.7～現在

委員		学長	吉岡利忠	(財)北陸体力科学研究所常務理事	(財)北陸体力科学研究所	08.6～現在
委員		学長	吉岡利忠	(財)黎明郷評議員	(財)黎明郷	08.4～現在
委員	文	教授	井上諭一	青森県近代文学館評議委員会委員	青森県立図書館	00.4～現在
委員	文	准教授	走井洋一	学校評議員	青森県立岩木高校	06.5～09.3
委員	文	教授	井上諭一	あすなろマスターカレッジ検討委員会委員	青森県総合社会教育センター	05.4～現在
委員	文	教授	井上諭一	あすなろマスターカレッジ企画委員会委員	青森県総合社会教育センター	06.5～07.3 08.5～現在
委員	文	准教授	今村かほる	あすなろマスターカレッジ検討委員会委員	青森県総合社会教育センター	06.4～現在
委員	社福	教授	大野拓哉	青森県運営適正化委員会委員	青森県社会福祉協議会	04.10～現在
委員	社福	教授	野口伐名	青森県青少年健全育成審議会委員及び図書 類部会長	青森県知事	04.4～08.6
委員	社福	教授	野口伐名	青森県青少年健全育成審議会会長	青森県知事	08.6～現在
委員	社福	教授	野口伐名	評価機構福祉サービス第三者事業評価委員 会委員長	弘前市社会福祉協議会	06.4～現在
委員	社福	准教授	八戸 宏	障害者総合福祉センターなつどまり苦情解 決事業第三者委員	障害者総合福祉センタ ーなつどまり	06.6～08.3 09.4～現在
委員	社福	准教授	八戸 宏	青森県介護実習・普及センター活動事業運 営委員会委員	(社福)青森県社会福祉 協議会	06.4～現在
委員	社福	准教授	八戸 宏	福祉サービス第三者評価事業評価機関認証 申請に伴う評価決定委員会委員	平川市社会福祉協議会	08.4～現在
委員	社福	准教授	西東克介	比較地方自治研究会米国部会委員	(財)自治体国際化協会	08.4～09.3
委員	社福	准教授	松本郁代	青森県社会福祉審議会委員	青森県知事	03.8～現在
委員	看護	教授	三上聖治	青森県立保健大学倫理委員会委員	青森県立保健大学	05.4.～現在
委員	看護	教授	片桐康雄	弘前市総合計画進行管理アドバイザー会議 委員	弘前市長	08.8～現在
委員	看護	教授	片桐康雄	弘前市福祉有償運送運営協議会委員	弘前市長	07.4～09.4
委員	看護	准教授	岡田 実	青森県支部施設幹事及び教育委員会委員	(社団)日本精神科看護 技術協会県支部	08.4～09.6
役員	看護	准教授	岡田 実	第14回東北精神科看護学会推薦用論文の 査読	(社団)日本精神科看護 技術協会県支部	08.4～08.8

e)大学の施設・設備の社会への開放や社会との共同利用の状況とその有効性

①礼拝堂

礼拝堂の外部への貸与については、「弘前学院大学礼拝堂管理運営規程」により、本学教職員及び学生に対する宗教教育並びに宗教活動、その他の指導を目的とし、その使用を優先するものとするが、法人本部において他へ貸与することができることとしており、「他へ貸与する場合は、法人本部においてその業務を行う（第2条3項）」と規定している。これまで年間を通して広く一般市民の使用に供しており、主に地域で活動している音楽団体のコンサート等に多く使用されている。

このほか礼拝堂は結婚式場として、卒業生のみならず一般に開放され、民間に運営を委託している。2003（平成15）年度から2009（平成21）年7月末現在までに134組が挙式している。

礼拝堂には100年以上の歴史のあるステンドグラスやパイプオルガンなどがあり、一般の見学者も多く、上記に挙げた結婚式等の使用や学内行事を除いた開館時間において、随時対応している。

②大学附属図書館

1988（昭和63）年10月20日に、弘前市内三大学の相互協力に関する申し合わせ事項が取り交わされ、それ以降、国立大学法人弘前大学・東北女子大学・弘前学院大学の学生および教職員がそれぞれの大学附属図書館長名での「大学図書館利用についての依頼書」を以て申請することにより、相互の図書館を同等に利用し得るところとなり、今日に至っている。また、これに加えて、青森県高等教育機関図書館協議会・東北地区大学図書館協議会等の大学図書館間相互協力体制も整っている。

以上のほか、附属図書館の利用については、「弘前学院大学附属図書館利用規則」が定められており、これに基づいて行われる。学外者の利用について、同規則は、「その他学外者で館長の許可を得た者。」（第3条3項）としている。「館長の許可」については、本学開放講義受講生・卒業生・地域住民等の場合、事務室総務課で学外者受付を済ませた後、受講証、運転免許証、健康保険証およびその他公的機関発行の身分証明書等を持参した者には、図書館の利用を認めている。

③体育館

体育館は、本学の授業及び学友会サークル活動に支障のない範囲で、一般の使用に供している。これまでも、社会人バスケットボール大会、スペシャルオリンピックス日本・青森、弘前一輪車クラブなどの大会や練習のために利用されている。

元来、女子大学であったことから、面積的にはバスケットボール1コート分であるため、その利用範囲におのずから限界があることは否定できない。

④講義室等

講義に影響のない範囲で、年間を通して広く一般に施設を開放している。礼拝堂や体育館と同様に地域で活動している団体等の使用に供している。弘前プリマベラ（マンドリン研究会）、スペシャルオリンピックス日本・青森、ひろさき自閉症スペクトラム支援ネットなどの会議や研修会、文化系団体の練習のために利用されている。

【点検評価】

キリスト教主義に基づく本学は、外人宣教師館と礼拝堂という、いわゆる講義棟や図書館・体育館などと違った性質の建造物を有し、それらを広く一般に開放するとともに、ここで行われる宗教行事も公開している。また、ハンドベルクワイアの演奏活動など、学生が直接、地域の人達と交流できる。このことは、本学ならではの社会貢献のあり方であるといえる。

「文化交流」という目的について、文学部は特段の配慮によって設定された科目等は過去にはなかった。しかし、これまでの文学部の歴史において、必ずしも体系だったものではないとはいえ、地域の中にある大学として、社会との文化交流に対して、長年積極的な取り組みをしてきたことは、相応に評価されてしかるべきである。例えば学友会を中心として行われる「弘学祭」などがそれである。また、2003（平成 15）年度初めての日本語教師を認定したが、2年目の2004（平成 16）年度の認定を受けた卒業生が、2005（平成 17）年度、資格を生かし地域に在住する外国人の教師に対し日本語教育を始め、その周囲で文化交流が始まっている。

また、大学として、2005（平成 17）年度から姉妹校である Wisconsin 大学 La Crosse 校との間での短期語学研修のプログラムが始まり、研修生を地域でホームステイさせてもらうこととなり、大学がホストファミリーと連携して研修生を受け入れることとなった。その他、日本文化・日本事情の理解、フィールドトリップの実施を通して、地域の市民の方々や学生の協力を得た。例えば、日本舞踊や津軽凧絵、茶道、華道、書道、りんご園の見学などであり、チューターの学生達と地域の市民の方々との間に連携が生まれたことは特筆すべきである。

こうした人と人の交流を目的とした地域住民との語学・文化の交流プログラムを充実していくことは、キリスト教学校としての本学の主義にも合致し、望ましい方向であるといえる。

社会福祉学部は、開設後 6 年という歴史を持つのみであり、社会との文化交流が十分であるとはいえない。しかし、学生の実習やボランティア、教員によるオンブズマン制度への関わりを通じて、その内容は多様・深化しつつあるといえる。福祉は地域文化の歩みともになればならないと考えた時、本学部の取り組みは評価されるものであると同時にいっそうの環境づくりが必要である。

更に、本学が、社会に対する知の還元のひとつとして、積極的な「開放講義」を早くから実行し、それなりの成果を挙げていることは評価できる。

問題点としては、科目数がまだ十分でなく、しかも学部間でかなり偏っている（文学部が多く、社会福祉学部が少ない）ことが挙げられる。もちろん、学部の性格の違いもあり、一概に言えることではない。

また、開放している科目数の割には受講者が多いとはいえない状況にあり、その原因として市民への広報活動が過去、必ずしも十分でなかったことをうかがわせる。宣伝・広報活

動の不徹底は、本学の反省すべき点であろう。このほか、受講の条件として「原則として15回の講義全てに参加できること」を掲げていることも一因としてあげられるだろう。

今後の課題として、現在、専任教員の担当科目のうち、履修する学生数や到達目標などの条件が満たされると判断される限られた科目を「開放講義」として開放しているが、市民から開放の要望の強い科目を開放することが望まれる。

今後、既存の研究所、学内学会の活動などについては、予算上の制約はあるが、大学院が設立され、教員の数や専門性の広がり、大学院生の活動などといった要素も加わり、着実な発展が期待される場所である。事実、国語・国文学会では、2005（平成17）年度の夏季大会・秋季大会において、大学院生や大学院教授による研究発表がなされている。

また、この他、国や地方公共団体における各種委員会や会議の議長・委員長や委員などを拝命している教員は多い。

【改善方策】

文学部・社会福祉学部の両学部共に「制度としての社会交流」を果たすべきカリキュラムの改善に向けた努力が、なお一層、求められていると考えられる。主として派遣事業を行うことで、近隣の高校などの要望に答える形にとどまっている。すなわち、まだ既存の「学校」組織との連携以上に踏み出せていない面がある。

文学部では2005（平成17）年度からのカリキュラムの有効性を検証中であり、2006（平成18）年度の「企業等実習」の初年度実施（2年次配当科目）を詳細に検討する必要がある。

また、2005（平成17）年度から始まった姉妹校 Wisconsin 大学 La Crosse 校との提携事業を軌道に乗せ、多くの研修生を受け入れられる体制づくりが必要であり、そのためのスタッフの確保や受け入れ体制の充実、ノウハウの蓄積が大切である。

また、大学を地域に開くという目標からすれば、本来は一般の市民から要望があり大学がそれに応える、あるいは大学側が積極的にそのような機会を設けるのが正しいと思われるが、市民の要望を十分に汲み取りきれていなかったところもあるので、より積極的な情報収集と参加への誘いが必要とされる。

「開放講義」においては、全国的に見ても先進的と言い得る取り組みを行って来たが、それでもなお演習形式では受講者数に制限を設けざるを得ず、希望者の多いものでは市民の要求に対応し切れていない結果になっている。この一部は時間割の組み方など、完全に技術的な問題であるから、漸次改善を試みているところである。

市民あるいは市民団体（NGO）に対しての教育研究成果還元は、これからの課題であり、既にそのための全学的な意思確認、またガイドラインの作成に向けて「公開講座委員会」が動き出してはいるが、未完成である。

産官学による取り組み、学社融合の取り組みが求められており、大学は組織として社会と連携できる窓口を設ける必要がある。